



ソフトウェアベースのエンドポイントの設定

- [ソフトウェアベースのエンドポイントの設定 \(1 ページ\)](#)
- [CTI ポートの設定 \(1 ページ\)](#)
- [H.323 クライアントの設定 \(12 ページ\)](#)
- [Cisco IP Communicator の設定 \(13 ページ\)](#)

ソフトウェアベースのエンドポイントの設定

この章のタスクを完了すると、CTI ポート、H、323 クライアント、Cisco IP Communicator などのソフトウェアベースのエンドポイントを設定することができます。

CTI ポートの設定

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3** [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リストから [CTI ポート (CTI Port)] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」の項を参照してください。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

関連トピック

[CTI ポート設定 \(2 ページ\)](#)

CTI ポート設定

表 1: CTI ポート設定

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| [デバイス名 (Device Name)] | 所有者ユーザIDに基づいて自動的に入力される CTI ポートの名前を指定します。 デバイス名の形式は、デフォルトで <i>CTIRD<OwnerUserID></i> です。 このフィールドは編集できます。デバイス名には最大 15 文字を含めることができます。使用できる文字は、英字、数字、ダッシュ (-)、ピリオド、スペース、およびアンダースコアです。 |
| [説明 (Description)] | CTI ポートの説明文を入力します。 このフィールドには、128 文字までの値を入力できます。二重引用符 (")、山カッコ (< >)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、パーセント記号 (%) を除くすべての文字を使用できます。 |
| [デバイスプール (Device Pool)] | CTI ポートを割り当てるデバイス プールを選択します。デバイス プールでは、複数のデバイスに共通の特性 (リージョン、日時グループ、ソフトキー テンプレートなど) のセットを定義します。 デバイス プール構成の設定を確認するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。 |
| [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] | CTI ポートを割り当てる共通デバイス設定を選択します。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。 |

| フィールド | 説明 |
|--|--|
| [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] | <p>ドロップダウンリストボックスで、使用可能な共通の電話プロファイルのリストから共通の電話プロファイルを選択します。</p> <p>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]の設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)]リンクをクリックします。</p> |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] | <p>ドロップダウンリストを使用から、コーリングサーチスペースを選択するか、コーリングサーチスペースをデフォルトの[なし (None)]のままにします。</p> |
| [AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] | <p>ドロップダウンリストから、自動代替ルーティング (AAR) を実行したときに使用するデバイスの適切なコーリングサーチスペースを選択するか、コーリングサーチスペースをデフォルトの[なし (None)]のままにします。</p> |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] | <p>適切なメディアリソースグループリストを選択します。メディアリソースグループリストは、優先順位順に並べられたメディアリソースグループから構成されます。</p> <p>[<なし> (<None>)]を選択すると、Cisco Unified CM はデバイスプールで定義されたメディアリソースグループリストを使用します。</p> |
| [ユーザ保留MOH音源 (User Hold MOH Audio Source)] | <p>ドロップダウンリストから、ユーザが保留操作を開始する場合に保留音 (MOH) として使用するオーディオソースを選択します。</p> |
| [ネットワーク保留MOH音源 (Network Hold MOH Audio Source)] | <p>ドロップダウンリストから、ネットワークが保留操作を開始したときのMOHに使用するオーディオソースを選択します。</p> |
| [ロケーション (Location)] | <p>ドロップダウンリストから、デバイスプール内の電話およびゲートウェイと関連付けられている場所を選択します。</p> |

| フィールド | 説明 |
|--------------------------------|--|
| [AARグループ (AAR Group)] | このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AAR グループが指定されていない場合、Cisco Unified CM はデバイス プールまたは回線に関連付けられている AAA グループを使用します。 |
| [ユーザロケール (User Locale)] | ドロップダウン リスト ボックスから、CTI ポートに関連付けるユーザ ロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。 ユーザ ロケールが指定されなかった場合、Cisco Unified CM はデバイス プールに関連付けられたユーザ ロケールを使用します。 |
| [ネットワークロケール (Network Locale)] | ドロップダウン リスト ボックスから、CTI ポートに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。ネットワーク ロケールには、特定の地理的領域の電話が使用するトーンと音の周期の定義が含まれます。 ネットワーク ロケールが指定されなかった場合、Cisco Unified CM はデバイス プールに関連付けられたユーザ ロケールを使用します。 |
| [プライバシー (Privacy)] | プライバシーについては、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで [オン (On)] を選択します。 |
| [オーナー (Owner)] | オーナー タイプには、[ユーザ (User)] または [匿名 (Anonymous)] (パブリック/共有スペース) を選択します。 |
| [オーナーのユーザID (Owner User ID)] | ドロップダウン リストから、割り当てられた CTI ポートユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、このデバイスから発信されるすべてのコールの呼詳細レコード (CDR) に記録されます。デバイスにユーザ ID を割り当てると、[ライセンスの使用状況レポート (License Usage Report)] でデバイスが [未割り当てデバイス (Unassigned Devices)] から [ユーザ (Users)] に移動します。 |

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| [複数ライン同時通話 (Join Across Lines)] | ドロップダウンリストボックスから、このデバイスの [回線をまたいで参加 (Join Across Lines)] 機能を有効または無効にするか、あるいは [デフォルト (Default)] を選択してサービス パラメータ設定を使用します。 |
| [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] | 次の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• [オフ (Off)] : このデバイスで、トラステッドリレーポイント (TRP) の使用を無効にするには、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。• [オン (On)] : このデバイスで TRP の使用を有効にする場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。• [デフォルト (Default)] : この値を選択した場合、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 |

| フィールド | 説明 |
|--|--|
| [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] | <p>ドロップダウンリストボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: 電話がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。 • [オン (On)]: 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールは鳴り続け、電話機ユーザはそれらの他の回線を選択して、これらのコールに応答する必要があります。 • [デフォルト (Default)]: Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] サービス パラメータの設定を使用します。 |

| フィールド | 説明 |
|--|--|
| [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] | <p>ドロップダウンリストボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 電話がアイドル状態の場合、電話のメッセージ ボタンを押すと、ボイス メッセージが設定されている回線からボイスメッセージシステムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は常にボイスメッセージのある最初の回線を選択します。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 • [オン (On)] : 電話がアイドル状態の場合に電話のメッセージ ボタンを押すと、電話のプライマリ回線がボイスメッセージを受信するアクティブな回線になります。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] サービス パラメータの設定を使用します。 |
| [地理位置情報 (GeoLocation)] | <p>ドロップダウンリストボックスから、地理位置情報を選択します。</p> <p>[未指定の地理位置情報 (Unspecified geolocation)] を選択すると、このデバイスを地理位置情報に関連付けないように指定できます。</p> <p>さらに、[システム (System)] > [地理位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した地理位置情報も選択できます。</p> |

| フィールド | 説明 |
|--|--|
| [プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))] | <p>コール単位でコール表示制限を設定する場合に、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は内線コールに対して受信したすべての表示制限を無視します。</p> <p>この設定と、トランスレーションパターンレベルでの発信者回線IDの表示および接続回線IDの表示の設定を組み合わせで使用します。これらの設定を組み合わせで使用すれば、コールごとに発信側または接続先の回線表示情報を選択的に表示またはブロックするようにコール表示制限を設定できます。</p> |
| [ハントグループにログイン (Logged into Hunt Group)] | <p>CTI ポートをハントリストに追加したら、管理者はこのチェックボックスをオン (またはオフ) にすることによって、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザは電話のソフトキーを使用して、電話をハントリストにログインまたはログアウトします。</p> |
| [リモートデバイス (Remote Device)] | <p>このチェックボックスをオンにすると、デバイスの登録時にバッファを割り当て、SCCP メッセージを電話機にバンドルします。</p> <p>ヒント この機能はリソースを消費するため、シグナリングの遅延が発生している場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。</p> |

[番号表示トランスフォーメーション (Number Presentation Transformation)]

表 2:[この電話からのコールの発信者ID (Caller ID For Calls From This Phone)]

| フィールド | 説明 |
|--|---|
| [発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)] | <p>この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発信側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> |

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| [デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] | このデバイスに割り当てられているデバイスプールに設定されている発信側トランスフォーメーション CSS を使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスを選択しない場合、デバイスは[トランク設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定した発信側変換 CSS を使用します。 |

表 3:[リモート番号 (Remote Number)]

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| [発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)] | ドロップダウンリストボックスから、このデバイスで受信したコールのリモート着信者番号に適用する、発信側変換パターンを含むコーディングサーチスペース (CSS) を選択します。 |
| [デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] | リモート通話とリモート接続番号の変換に、このデバイスが属するデバイスプールで設定されている発信側トランスフォーメーションCSSを適用するには、このチェックボックスをオンにします。 |

表 4:[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]

| フィールド | 説明 |
|--------------------------------------|--|
| [BLFプレゼンスグループ (BLF Presence Group)] | <p>ドロップダウンリストボックスから、エンドユーザのビジーランプフィールド (BLF) プレゼンスグループを選択します。選択したグループは、エンドユーザがモニタ可能な接続先を指定します。</p> <p>BLFプレゼンスグループのデフォルト値は[標準のプレゼンスグループ (Standard Presence group)]であり、インストール時に設定されます。Cisco Unified 管理ページで設定されるBLFプレゼンスグループは、ドロップダウンリストボックスにも表示されます。</p> |

| フィールド | 説明 |
|---|--|
| [デバイスのセキュリティプロファイル (Device Security Profile)] | <p>デバイスに適用するセキュリティプロファイルを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されるすべてのデバイスにセキュリティプロファイルを適用する必要があります。</p> |
| [SUBSCRIBEコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] | <p>プレゼンス機能によってサポートされる SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、Cisco Unified Communications Manager がエンドユーザから発信されたプレゼンス要求をルーティングする方法を決定します。この設定では、エンドユーザのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求のコール処理サーチスペースと別にコーリングサーチスペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウンリストから、エンドユーザのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager Administration で設定するすべてのコーリングサーチスペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリストに表示されます。</p> <p>ドロップダウンリストから、エンドユーザに別のコーリングサーチスペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースのデフォルトは [なし (None)] に設定されます。</p> <p>この目的専用の SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを設定するには、他のコーリングサーチスペースと同様に新しいコーリングサーチスペースを設定します。</p> |
| [不在ポート (Unattended Port)] | <p>このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p> |

表 5: [MLPP および機密アクセス レベル情報 (MLPP and Confidential Access Level Information)]

| フィールド | 説明 |
|--|--|
| [MLPPドメイン (MLPP Domain)] | <p>ドロップダウン リストから、このデバイスに関連付ける Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメインを選択します。このフィールドが空欄にすると、デバイスの MLPP ドメインはデバイス プールに対して設定された値から継承されます。デバイス プールに [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] の設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは [MLPP ドメイン ID (MLPP Domain Identifier)] エンタープライズ パラメータの設定値から継承されます。</p> <p>MLPP ドメインのデフォルト値では [なし (None)] が指定されています。</p> |
| [機密アクセス モード (Confidential Access Mode)] | <p>ドロップダウン リストボックスから、機密アクセス レベルモードとして次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [固定 (Fixed)]: 機密アクセス レベル値はコールの完了よりも優先されます。 • [可変 (Variable)]: コールの完了に CAL のレベルより高い優先順位が設定されます。 |
| [機密アクセスレベル (Confidential Access Level)] | <p>ドロップダウン リストボックスから、適切な [機密アクセス レベル (Confidential Access Level)] 値を選択します。</p> |

表 6: サイレント情報

| フィールド | 説明 |
|---------------------------|---|
| [サイレント (Do Not Disturb)] | <p>リモート デバイスのサイレント機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> |
| [DNDオプション (DND Option)] | <p>DND を有効にした場合、[コール拒否 (Call Reject)] オプションは、着信コール情報をユーザに提示しないように指定します。[DND着信コール警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータの設定に応じて、デバイスはビープを再生するか、コールの点滅通知を表示します。</p> |

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| [DND着信コール警告 (DND Incoming Call Alert)] | <p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合、このパラメータはデバイスでコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信コール警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定をこのデバイスで使用するよう指定します。 • [無効 (Disable)] : このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。[DND コール拒否 (DND Call Reject)] オプションの場合、コールアラートが表示されず、デバイスに情報が送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : 着信コールの場合、このオプションによって、デバイスでビープ音のみが再生されます。 • [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、デバイスのフラッシュアラートだけが表示されます。 |

H.323 クライアントの設定

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから [H.323 Client] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」の項を参照してください。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

関連トピック

[H.323 クライアントの設定](#) (13 ページ)

H.323 クライアントの設定

Cisco IP Communicator の設定

Cisco IP Communicator は、ソフトウェアベースのアプリケーションです。ユーザがパーソナルコンピュータを電話機として使用し、電話のコールが受信できるようにします。フル装備の Cisco Unified IP Phone と同じ機能を利用できます。Cisco IP Communicator は、Cisco Unified Communication Manager のコール処理システムを利用して、テレフォニー機能と Voice-over-IP 機能を提供します。Cisco Unified CM Administration の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、電話デバイスとして Cisco IP Communicator を設定します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、[Cisco IP Communicator] を選択し、
[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [デバイスプロトコルの選択 (Select the Device Protocol)] ドロップダウンリストから、[SCCP] または [SIP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで次の必須フィールドを設定します。

- [デバイス名 (Device Name)] : Cisco IP Communicator のデバイスを識別する名前を入力します。
- [デバイスプール (Device Pool)] : この電話機を割り当てるデバイスプールを選択します。デバイスプールでは、複数のデバイスに共通の特性 (リージョン、日時グループ、ソフトキーテンプレートなど) のセットを定義します。
- [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] : 該当する電話ボタンテンプレートを選択します。電話ボタンテンプレートでは、電話機上のボタンを設定し、各ボタンにどの機能 (回線、短縮ダイヤルなど) を使用するかを特定します。

- [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] : ドロップダウン リストボックスから、割り当てられた電話ユーザのユーザ ID を選択します。
- [デバイスのセキュリティ プロファイル (Device Security Profile)] : デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。

残りのフィールドにデフォルト設定を使用できます。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 [関連付け (Association)] エリアで、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] をクリックします。

ステップ 8 [ディレクトリ話番号 (Directory Number)] フィールドに、電話に関連付ける電話番号を入力します。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。
